

## 緊急時の役割分担

団体代表引率者

氏名

携帯番号

応急手当て係 (活動中救急箱をもっている人)

氏名

携帯番号

### 緊急時行動ガイド表

何か起きた!!!  
事故??ケガ???

①②  
同時に

①現場の状況確認

・どんな場所?

・誰がどのような状態??

②応急手当

・自分たちができる応急手当を行う

自分たちで処置や  
対応ができない

自分たちで処置や  
対応ができる

美方高原自然の家に  
電話し状況を知らせる  
職員の指示に従う。  
他の参加者のフオロ—  
も忘れずに

経過観察、  
その都度対応を

施設電話番号 0796 - 97 - 3600

近隣病院電話番号 ※病院にかかるときは一度施設へご連絡ください

公立村岡病院 0796 - 94 - 0111 (総合)

村 瀬 医院 0796 - 94 - 0003 (外科)

小 代診療所 0796 - 97 - 2023 (内科)

## 活動チェックリスト

このチェックリストを使って、自分たちが行う活動に対してリスクを意識しましょう

### 現地下見

- 活動エリアを見て浮かんた「もしも」を他のスタッフと共有しましょう。また「もしも」が起こった時に、どのようにに対処するかも考えておきましょう

### 活動前

- 活動する場所の状況は確認しました
- 危険な場所と対処の方法は確認しました
- 緊急時の対応と役割分担を確認しました
- 救急用品は誰が持っていますか
- 参加者の人数や健康チェック、服装や持物の確認をしました
- スタッフの健康は万全です

### 活動中

- 参加者の人数は常に確認しています
- 体調が悪そうな参加者はいませんか
- 参加者に指示がきちんと伝わっています
- 参加者に危険箇所の案内はできています
- 天候の状況をできています

### 活動後

- 参加者は全員いることが確認できてますか
- 体調が悪くなった参加者はいませんか
- 屋内に入るときに服をはたきましたか  
※野外でついた虫やダニを取り除くため
- けがをした参加者はいませんか
- 参加者の心は安全ですか

## 尼崎市立美方高原自然の家 安全確認ノート

このノートは活動中の「もしも」を防ぐため、そして「もしも」が起きた時に使うノートです。

内容をよく読み、活動中は常に携帯しておきましょう

もし何か起きた場合は、  
施設に連絡する



尼崎市立美方高原自然の家

0796 - 97 - 3600

「はい美方高原自然の家〇〇〇です」と言われたら

- ①「緊急です」と言う
- ②自分の名前及び団体名を言う
- ③いつ、どこで、何が起きたかを話す
- ④現時点の状況を話す
- ⑤職員の指示に従う

OUTWARD BOUND® JAPAN

## ○野生生物への配慮

### 大型の野生生物

クマやイノシシ、鹿など施設周辺にはたくさん大型野生生物が暮らしています。森や山道では一人で行動しないこと。また森の中などに入るときは鈴などをもって、自分たちがいることをアピールしながら歩きましょう



### ハチ

ハチが近づいてきたら、その場を動かずしゃがんで、ハチがその場を離れるまで待ちましょう。また帽子を着用しないと、人の頭をクマと間違えて刺してしまうかもしれません

### ヘビ

草が生い茂った藪の中には、ヘビがいるかもしれません。足元が見えにくいところには気を付けてはいりましょう。またヘビがいたら触ったり、覗き込んだりしないのでその場から離れましょう

## ○植物への配慮

### ウルシ・ツタウルシ

森の中にある木や、木に巻き付いているツタなどには、肌が弱い人がかぶれてしまう植物もあります。森の中に入るときは肌が隠れる恰好をして入りましょう



## ○美方高原での観天望気

施設を中心に西側の山並み周辺に、真っ黒な雲がかぶってきたら、ゲリラ豪雨や夕立になる合図です。雷が閃光してから、15秒以内に雷鳴が聞こえたら、自分の近くに雷が落ちる可能性が高くなっています。

- もし上記のような状況になったら、
- ①鉄筋コンクリートや本格的な木造建築物の下に入りましょう。(移動はなるべく低い体勢で！)
- ②木の近くや森、林の中には行かないように
- ③傘などをささないようにしましょう



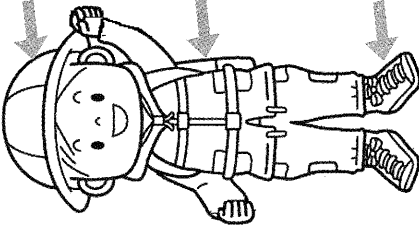
気象情報収集先 参考

日本気象協会 <http://tenki.jp/>

ウェザーニューズ <http://weathernews.jp>

## ○4月～11月での活動時で気をつけてほしい事

(無積雪期)



帽子をかぶろう

帽子をかぶることで熱中症や虫除け対策になります

長袖・長ズボンを着よう

ツリーイングや墓地作りなど森の中でプロگرامを行うときは虫さされや植物でのかぶれを防ぐために長袖・長ズボンを着用

履きなれた靴とくるぶしが隠れる靴下を履こう

### 登山

- ・登山地図を必ず携帯しましょう
- ・登山道を知っている引率者が必要です
- ・参加者の水分補給を1ℓ以上で考えましょう
- ・先頭と最後尾の差を確認しながら進めましょう
- ・冬季登山を行う場合は、冬季登山技術や装備、経験の有無、下見が必要となってきます

### 沢登り

- ・沢ルートを知っている引率者が必要です
- ・ぐらぐらする石が多いので、石から石に飛び移らないようにしましょう
- ・沢登り終了後、参加者が冷えないように、早く着替えられるようにしましょう
- ・ナイトハイク

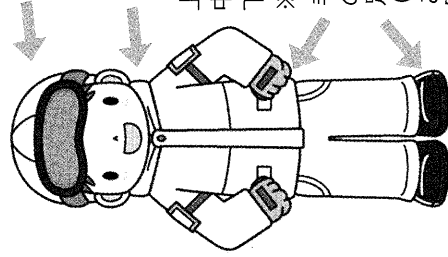
- ・引率者は日中に下見を行いましょう
- ・都市部に住んでいる参加者は暗闇に恐怖を抱くかもしれません。出発前に夜の森に生きている物たちの過ごし方等を伝えましょう
- ・懐中電灯は足元を照らす道具として伝えましょう
- ・キャンプファイアー・キャンダルサーブス

- ・大きな炎でのキャンプファイアーは飛び火等でやけど危険性があるので十分注意しましょう
- ・トーチ棒をもつ参加者には事前に十分に指導しましょう

※これ以外のアクティビティにも注意事項があります。詳しくは職員にお尋ねください。

## ○12月～3月での活動時で気をつけてほしい事

(積雪期)



頭は毛糸の帽子などで温かく目はゴーグルやサングラスで保護

首にマフラーなどを巻くと尚一層温かくなります

上着：スキーウェアや雨具の上下

中着：フリースやウールのセーター

下着：化繊素材の速乾性の高いもの

※冬場は思った以上に汗をかきます

手には毛糸の手袋や軍手の上に厚手のゴム手袋

足元は長靴と厚手の靴下

(靴下重ね履きも可能)

この上にスパッツ(雪や水の浸入を防ぐの布)を被せる

※施設の貸し出し用品

雪だるまやかまくらづくり

- ・現状復帰が原則です。作って楽しんで後は造形物を崩します持ち物について
- ・冬場は氷点下から8℃ぐらいまでと温度変化が激しいです。また雪の上での活動は体力も激しく消耗します。予備の手袋や靴下、お菓子や温かい飲み物などをリュックに入れておきましょう

### 施設周辺の危険箇所

- 建物の屋根の下
- 屋根からは積もった雪やツラツラなどが落ちてきます
- 道路わき
- 雪が道より外にせり出し踏み抜くと道下に落ちてしまいます
- 立ち木や建物の周囲
- 周囲に雪の穴が空いている場合があります。
- 道路の凍結
- 雪が積もったり解けたりを繰り返して大変滑りやすくなります



1立方メートルの雪の重さは、およそ100kg～500kgぐらいになります

道路脇にはポールが立っています。ポール外に出してしまうと道路を踏外す恐れがあります

そり遊びは施設から指定されている場所以外で大変危険です。雪の下に溝や標識などが隠れていて事故を引き起こす可能性があります